

あら坊・あらみいと一緒にみる

荒川区の財務諸表

(令和3年度決算版)



この冊子では、荒川区の財務諸表を、
僕たちが解説するよ！

目次

あら坊・あらみいと一緒に
第1部 財務諸表をみてみよう



.....	1頁
はじめに	1頁
財務諸表のしくみ	2頁
貸借対照表	6頁
行政コスト計算書	8頁
財務諸表の全体構成	10頁

第2部 財務諸表の解説



.....	11頁
令和3年度一般会計財務諸表の概要	12頁
財務諸表の説明	14頁
1 貸借対照表	14頁
2 行政コスト計算書	16頁
3 キャッシュ・フロー計算書	18頁
4 正味財産変動計算書	20頁
5 有形固定資産及び無形固定資産附属明細書	21頁

本書の計数については、各項目とも表示単位未満を四捨五入しているため、表中の増減額及び合計額等が一致しない場合があります。

第1部

あら坊・あら
みいと一緒に

財務諸表をみてみよう

はじめに

荒川区の令和3年度の一般会計決算は、
歳入 1,134億2,905万円
歳出 1,084億7,335万円
差引 49億5,571万円
の黒字なんだって。よかったね。



黒字だからって喜んでばかりじゃ駄目よ。
荒川区は貯金もあるし、新しい施設も作
っているけど、借入金だってあるし、古くな
った施設もあるんだから。
さらに、新型コロナウイルス感染症対策等
の行政需要についても、今後も十分に備え
ていく必要があるの。
そういう現状をちゃんと把握して、今後ど
うしていくか考えていくために、荒川区は
財務諸表を作っているのよ。

財務諸表ってなに？
今までの決算書じゃわからなかつ
たことがわかるの？

荒川区のシンボルキャラクターなら財務諸表くらい知らなくちゃね。
これから私と一緒に勉強していき
ましょ！



うん、がんばるよ。



財務諸表のしくみ

まずは、財務諸表の基本からね。
日々の複式簿記を積み上げて財務諸表は出来上がるの。これは民間企業と同じで、今まで役所では、やってこなかったことなの。
それじゃあ解説していくわね。



財務諸表は、年度末の財産を示す「貸借対照表」と1年間の行政サービスに関わる経費の収支を示す「行政コスト計算書」の2つが基本よ。
荒川区の令和3年度一般会計財務諸表のうち、貸借対照表と行政コスト計算書は、次のとおりよ。

令和3年度一般会計財務諸表

貸借対照表

	負債 283億円
資産	正味財産
4,193億円	3,910億円
	当期収支差額65億円

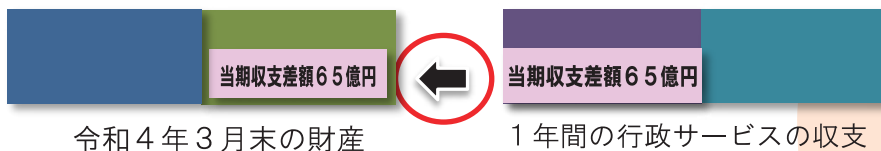
令和4年3月末の財産

行政コスト計算書

費用	収入
1,011億円	1,077億円
当期収支差額65億円	

1年間の行政サービスの収支

当期収支差額の65億円の矢印はどういう意味なの？



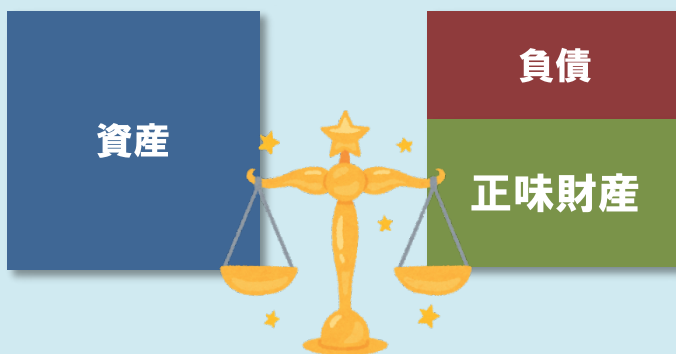
その矢印は、行政コスト計算書の1年間の収支が、貸借対照表の正味財産の増減につながっているという意味なのよ。

このような形で2つの財務諸表はつながっていて、貸借対照表と行政コスト計算書は2つで一つの決算を示しているの。



あと、貸借対照表は必ず「資産」＝「負債」＋「正味財産」になるのよ。

貸借対照表では、こんなふうに、左側に資産、右側に負債・正味財産を表示して、左右で金額が一致するの。このことから、英語ではバランスシートというのよ。



うーん、まだしっかりこないなあ。





それではまず、貸借対照表の見方を教えるわね。
例えば年度当初に100円持っていて、そのうち30円が借りているお金とすると、実際の自分の財産は70円よね。
持っているお金を「資産」、借りているお金を「負債」、その差引の実際の自分の財産を「正味財産」というのよ。貸借対照表に置き換えるとこんな感じね。左右が一致しているでしょ。

貸借対照表（年度当初）

資産 100円	負債 30円
	正味財産 70円

ほんとだ！

左側に資産が100円で、右側に負債30円+正味財産70円だから、合計100円で、左右の金額が一致しているね。



次に1年間で80円収入を得て50円支出すると収支差額は30円。これを行政コスト計算書に置き換えるとこうなるわ。



行政コスト計算書

費用 50円	収入 80円
当期収支差額 30円	

ふむふむ。ところで80円から50円を引くと、手元に30円が残るけど、それはどこに行っちゃったの？



いい質問ね。まず、当期収支差額30円が正味財産の増減だから、正味財産が30円増えて、70円が100円になるわよね。



年度当初

正味財産
70円

+

当期収支差額
30円

=

年度末

正味財産
100円

手元に残った現金30円はというと、現金は貸借対照表の資産になるから、資産が100円から130円になるのよ。



収入した現金80円ー支出した現金50円

年度当初

資産
100円

+

(現金)
30円

年度末

資産
130円



これで資産も130円、負債+正味財産も130円で、左右が一致するんだね。なんだか手品みたいだね。



複式簿記を勉強すると、仕組みがわかるわよ。
お兄ちゃんもがんばって勉強しなきゃね。

貸借対照表 (年度末)

資産 130円	負債 30円
	正味財産 100円

貸借対照表

早速、実際の荒川区の令和3年度財務諸表を
みてみましょうか。
まず、貸借対照表からね。

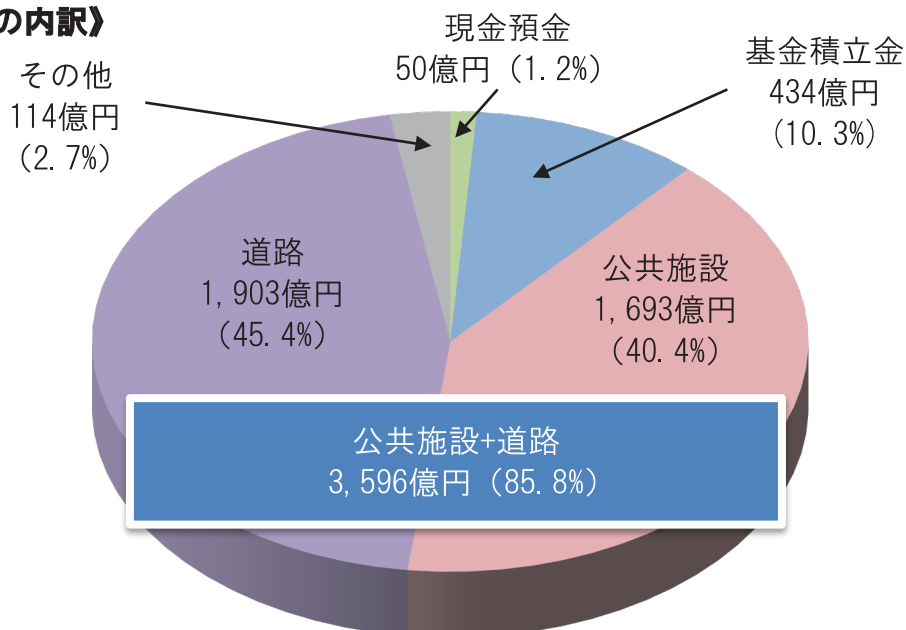


貸借対照表（一般会計）

（令和4年3月31日現在）

資産		負債	
現金預金	50億円	特別区債	185億円
基金積立金	434億円	賞与・退職給与引当金	96億円
公共施設	1,693億円	その他	2億円
道路	1,903億円	負債合計	283億円
その他	114億円	正味財産	3,910億円
資産合計	4,193億円	負債及び正味財産合計	4,193億円

《資産の内訳》



※勘定科目は、わかりやすいよう、行政財産及び普通財産を公共施設、インフラ資産を道路と読み替えています。

資産のうち、道路が約5割、公共施設が約4割を占めているんだね。これは自治体の貸借対照表の特徴の一つなんだよね。

基金積立金や特別区債、賞与・退職給与引当金ってどういうものなの？

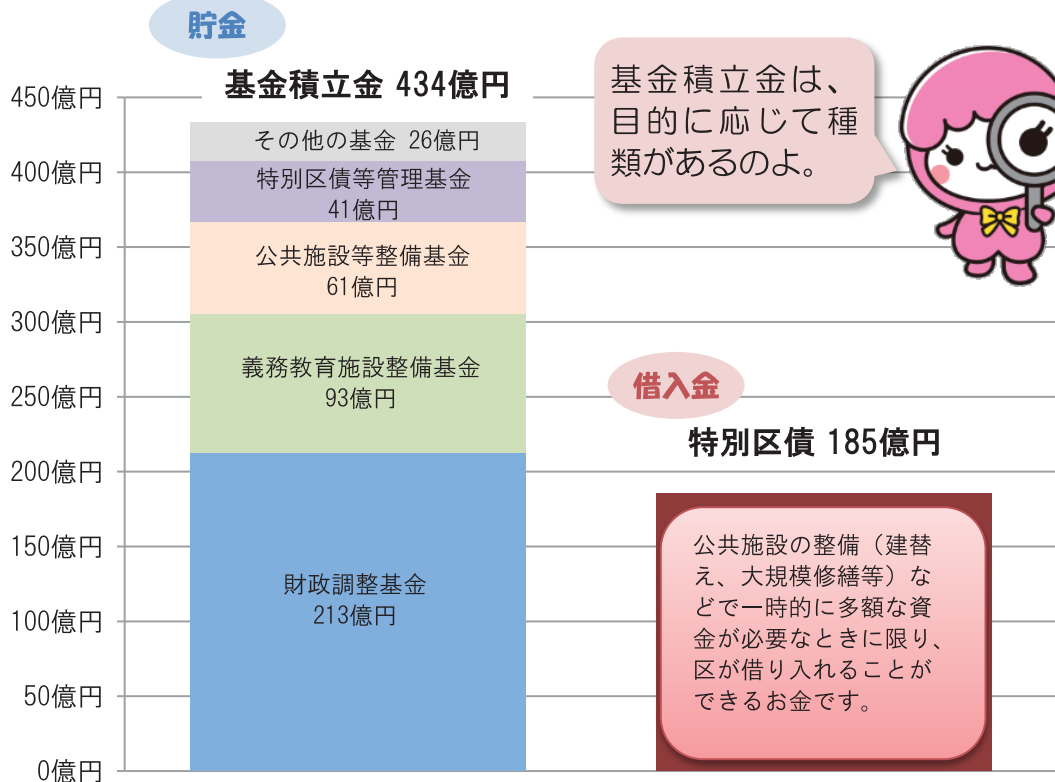


基金積立金は区の貯金で、特別区債は区が借り入れているお金よ。

借入金（特別区債）が185億円もあるんだ。でも、貯金（基金積立金）が434億円だから、貯金のほうがずっと多いんだね。

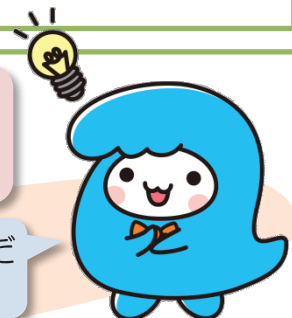


《基金積立金の内訳と特別区債の状況（一般会計）》



賞与・退職給与引当金は、区の職員に将来支払うお金を会計上のルールによって負債とみなして計上しているものよ。

いずれは支払うから、見える化するんだね！



行政コスト計算書

次は行政コスト計算書ね。行政コスト計算書は「行政収支」「金融収支」「特別収支」の3つの区分があるけど、主な収支である「行政収支」をしてみるわね。



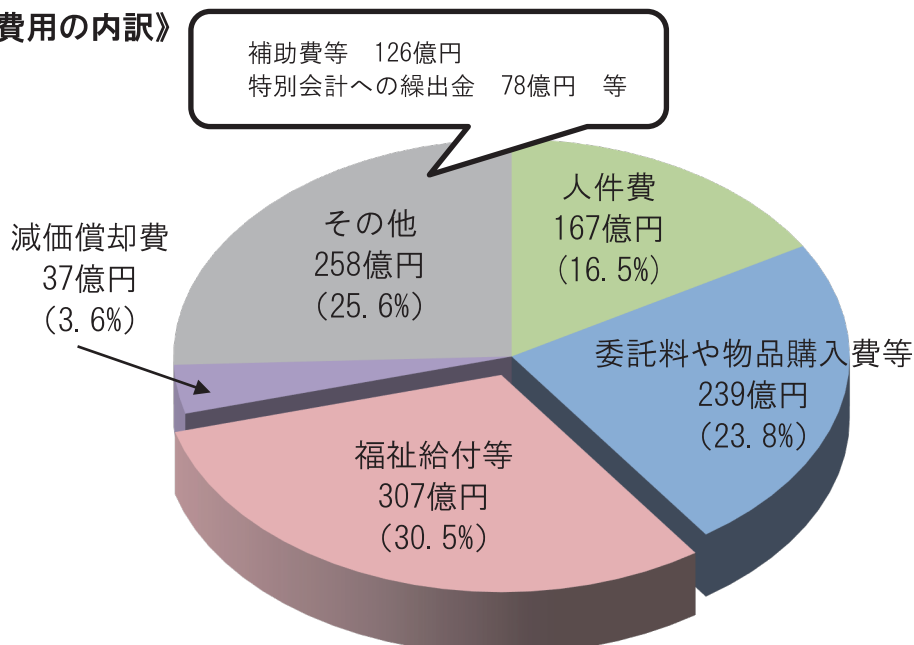
行政コスト計算書（一般会計）

<行政収支>

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

費用		収入	
人件費	167億円	特別区税	185億円
委託料や物品購入費等	239億円	特別区財政調整交付金	410億円
福祉給付等	307億円	国庫・都支出金	372億円
減価償却費	37億円	使用料及び手数料	16億円
その他	258億円	その他	92億円
合計	1,008億円	合計	1,075億円
行政収支差額	67億円		

《費用の内訳》



※勘定科目は、わかりやすいよう、地方税を特別区税、給与関係費を人件費、物件費を委託料や物品購入費等、扶助費を福祉給付等と読み替えています。



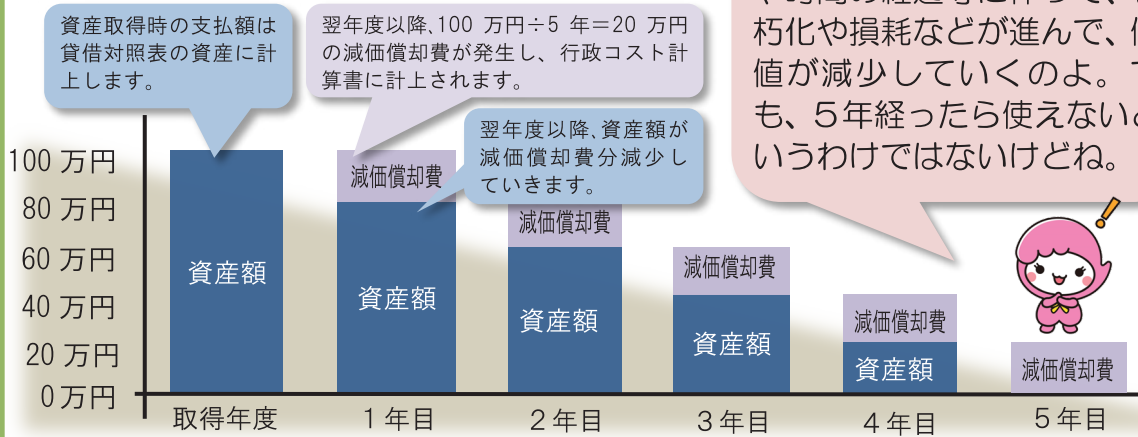
費用をみると、子育て支援の充実のほか、高齢者や障がい者の方への給付など、全ての区民が安心して暮らすために必要な福祉給付等に区が力を入れているのがわかるわね。

福祉給付等は、大切な費用なんだね。ところで減価償却費ってどういう費用なの？



減価償却費は、1年間の建物等の価値の減少分を金額で示したものよ。実際に現金が減るのではなくて資産の価値が減っていくから、資産の額が貸借対照表上減るのよ。イメージは下の「減価償却の例」を見てね。

《減価償却の例（取得価格 100 万円、耐用年数 5 年の場合）》



減価償却費など、今までは見えなかった費用がわかるんだね。

そうよ、財務諸表には、区の財務状況を考えるたくさんのヒントがちりばめられているのよ。



財務諸表の全体構成

荒川区の財務諸表は、貸借対照表と行政コスト計算書の他に、キャッシュ・フロー計算書と正味財産変動計算書があって、全部で4つの表で構成されているの。

それら4表は互いに関係しあって、一体として荒川区の財務状況を示しているのよ。

ここでは各表の関係を紹介するので、次の頁からの財務諸表の解説をみるよときの参考にしな。



※ 矢印は表間で金額が一致する箇所を示しています。
 ※ [] 内は令和3年度一般会計の決算額を示しています。

① 貸借対照表

資産 [4,193 億円]	負債 [283 億円]
(現金預金) [50 億円]	正味財産 [3,910 億円]

② 行政コスト計算書

費用 [1,011 億円]	収入 [1,077 億円]
当期収支差額 [65 億円]	

③ キャッシュ・フロー計算書

行政サービス活動 [108 億円]
社会資本整備等投資活動 [△77 億円]
財務活動 [△6 億円]
+
前年度からの繰越金 [23 億円]
=
形式収支 [50 億円]

④ 正味財産変動計算書

前期末残高 [3,832 億円]
+
当期変動額 [78 億円]
(当期収支差額) [65 億円]
=
当期末残高 [3,910 億円]

キャッシュ・フロー計算書は、現金の収支を3つに区分して示していて、現金がどのような行政活動で増減したかわかるんだよ。

形式収支は年度末の現金だから、貸借対照表の現金預金と一致するよ。

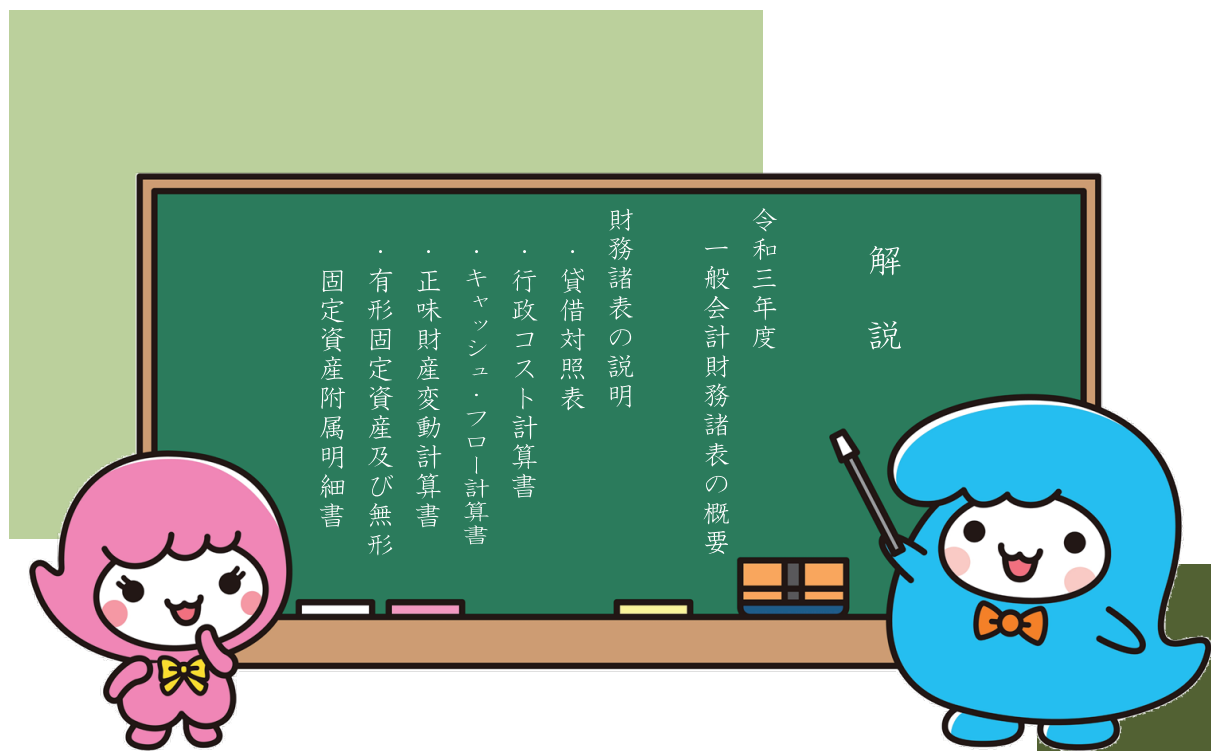
正味財産変動計算書は、正味財産の1年間の増減内訳を示しているのよ。



※ 上記4表のほか財務諸表の補足説明のための「有形固定資産及び無形固定資産附属明細書」があります。

第2部

財務諸表の解説



僕も荒川区の財務諸表がわかってきたよ。



よかったわ！
第2部では荒川区の財務諸表についてもう少し詳しく解説するわね。



まだまだ財務諸表からわかることがいっぱいあるんだね！

そうよ。第2部は盛りだくさんだから！
まずは「令和3年度一般会計財務諸表の概要」よ。
ぜひみてね！



令和3年度一般会計財務諸表の概要

1 貸借対照表

(単位：億円)

科目	令和3年度	令和2年度	増減	科目	令和3年度	令和2年度	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	271	241	31	流動負債	26	26	0
現金預金	50	23	26	還付未済金	0	0	0
収入未済	10	12	△ 2	特別区債	17	16	1
不納欠損引当金	△ 1	△ 2	0	リース債務	1	1	0
基金積立金	213	207	6	賞与引当金	8	8	△ 1
短期貸付金	0	0	0	その他	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	固定負債	257	258	△ 1
固定資産	3,922	3,875	47	特別区債	168	174	△ 6
行政・普通財産	1,693	1,646	48	リース債務	1	2	△ 1
インフラ資産	1,903	1,899	4	退職給与引当金	88	83	5
リース資産	5	5	△ 0	負債の部合計	283	284	△ 1
長期貸付金	19	18	1	正味財産の部			
貸倒引当金	0	0	0	正味財産	3,910	3,832	78
基金積立金	221	213	8	正味財産の部合計	3,910	3,832	78
その他	81	93	△ 13	負債及び正味財産の部合計	4,193	4,116	78
資産の部合計	4,193	4,116	78				

貸借対照表の概要

- 資産の総額は4,193億円で、前年度と比較して78億円増加しています。これは、新たなふれあい館の建設やあらかわ遊園の大規模改修などにより、固定資産のうち行政・普通財産が48億円増加したこと等によるものです。
- 負債の総額は283億円で、前年度と比較して1億円減少しています。これは、固定負債のうち、施設整備のための特別区債の発行額が6億円減少したことや、退職給与引当金が5億円増加したこと等によるものです。
- 資産から負債を差し引いた正味財産総額は3,910億円で、前年度から78億円増加しています。

3 キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

科目	令和3年度	令和2年度	増減
行政サービス活動収支差額①	108	64	44
社会資本整備等投資活動収支差額②	△ 77	△ 78	1
財務活動収支差額③	△ 6	8	△ 14
収支差額合計ア(①+②+③)	26	△ 5	31
前年度からの繰越金イ	23	28	△ 5
形式収支(ア+イ)	50	23	26

キャッシュ・フロー計算書の概要

- キャッシュ・フロー計算書の収支差額合計は、前年度と比較して31億円増加しています。これは、行政サービス活動収支差額が44億円、社会資本整備等投資活動収支差額が1億円増加した一方で、財務活動収支差額が14億円減少したことによるものです。
- 収支差額合計に前年度からの繰越金23億円を加えた形式収支は50億円です。

これがあらみいが言っていた荒川区の財務諸表の4つの表なんだね。



2 行政コスト計算書

(単位：億円)

科目	令和3年度	令和2年度	増減	科目	令和3年度	令和2年度	増減
行政費用①	1,008	1,138	△ 130	行政収入②	1,075	1,163	△ 88
給与関係費	167	165	1	地方税	185	185	0
物件費	239	201	39	特別区財政調整交付金	410	391	20
維持補修費	12	13	△ 1	その他交付金等	63	57	7
扶助費	307	301	7	国庫支出金	294	405	△ 111
補助費等	126	300	△ 174	都支出金	78	85	△ 7
減価償却費	37	34	2	分担金及び負担金	10	9	2
各種引当金繰入額	21	25	△ 4	使用料及び手数料	16	15	1
その他	99	99	0	その他	18	17	2
行政収支差額ア(②-①)	67	25	42				
金融費用③	1	1	0	金融収入④	0	0	0
金融収支差額イ(④-③)	△ 1	△ 1	0				
通常収支差額(ア+イ)	66	24	42				
特別費用⑤	2	2	0	特別収入⑥	1	1	0
特別収支差額ウ(⑥-⑤)	△ 1	△ 1	0				
当期収支差額(ア+イ+ウ)	65	24	42				

行政コスト計算書の概要

- 行政費用は1,008億円で、前年度と比較して130億円減少しています。これは、新型コロナウイルスワクチン接種事業費等の物件費が39億円増加した一方で、前年度に実施した特別定額給付金事業が終了したこと等により、補助費等が174億円減少したこと等によるものです。行政収入は1,075億円で、前年度と比較して88億円減少しています。これは、特別区財政調整交付金が20億円、その他交付金等が7億円それぞれ増加した一方で、前年度に実施した特別定額給付金事業が終了したこと等により、国庫支出金が111億円減少したこと等によるものです。
- 行政収支に、特別区債の利子支払等の金融収支及び特別収支を加えた令和3年度当期収支差額は、65億円の黒字となっています。

4 正味財産変動計算書

(単位：億円)

項目	金額
前期末残高ア	3,832
当期変動額イ	78
当期収支差額	65
その他の増減	13
当期末残高(ア+イ)	3,910

正味財産変動計算書の概要

- 正味財産の前期末残高は3,832億円でしたが、令和3年度中に78億円増加し、当期末残高は3,910億円となりました。増加額の主な内訳は、区の行政サービスに係る収支（行政コスト計算書の当期収支差額）65億円の黒字や、その他の増減における公共施設整備のための国庫・都支出金13億円です。

区民一人当たりの財務諸表

貸借対照表

資産 [194万7千円]	負債 [13万2千円]
	正味財産 [181万6千円]

行政コスト計算書（行政収支）

行政費用 [46万8千円]	行政収入 [49万9千円]
行政収支差額 [3万1千円]	

令和4年4月1日現在の人口215,361人で算定

財務諸表の説明

貸借対照表は、区の財産等（資産）や借入金等（負債）が一目でわかるんだ。



1 貸借対照表

貸借対照表は、荒川区が住民サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・正味財産）で賄ったかを総括的に示したものです。左右の資産合計額と負債及び正味財産合計額が一致している表であることから、バランスシートとも呼ばれます。

＜一般会計貸借対照表＞

（単位：百万円）

【資産の部】	令和3年度	令和2年度	増減
I 流動資産	27,136	24,081	3,055
現金預金	4,956	2,338	2,618
収入未済	993	1,185	△ 192
不納欠損引当金	△ 114	△ 166	52
基金積立金	21,287	20,705	582
短期貸付金	14	18	△ 4
貸倒引当金	0	0	0
II 固定資産	392,198	387,486	4,712
1 行政財産	156,703	152,605	4,098
2 普通財産	12,623	11,967	656
3 重要物品	1,357	1,381	△ 24
4 インフラ資産	190,300	189,896	404
5 リース資産	496	536	△ 40
6 建設仮勘定	1,215	2,460	△ 1,245
7 投資その他の資産	29,504	28,641	863
有価証券及出資金	4,939	4,939	0
出捐金	550	550	0
長期貸付金	1,940	1,830	110
貸倒引当金	0	0	0
基金積立金	22,074	21,322	752
資産の部合計	419,334	411,566	7,767

I 流動資産
 翌年度に現金化する資産です。
収入未済
 収入すべき額のうち、まだ現金化されていない額
不納欠損引当金／貸倒引当金
 収入未済や貸付金のうち、回収できない可能性がある額を見積計上したもの
基金積立金
 財政調整基金及び特別区債等管理基金のうち翌年度取崩予定額
短期貸付金
 翌年度に償還期限が到来する貸付金額



行政財産が増えて
いるんだね。

※ 6頁の勘定科目は、わかりやすいよう、行政財産及び普通財産を公共施設、インフラ資産を道路と読み替えています。

II 固定資産

行政活動のために使用することを目的として保有する資産や1年を超えて現金化される資産等です。記載金額は現在価格です。
行政財産
 庁舎や区立学校等、公用・公共用の公有財産（インフラ資産を除く）
普通財産
 行政財産以外の公有財産（貸付等で収益を得る、行政目的の用途がなくなった財産等）
重要物品
 取得価格100万円以上の物品

インフラ資産
 道路、橋梁等の公有財産
リース資産
 ファイナンス・リース契約による資産
建設仮勘定
 建設中の建物等に係る支出済額
投資その他の資産
 有価証券や流動資産以外の基金積立金（※）等
 ※ 特定目的基金及び特別区債等管理基金（翌年度取崩予定額を除く）

区の借入金（特別区債）に加えて、将来の負担が見込まれる退職給与引当金も少し増えているのね。



(単位：百万円)

【負債の部】	令和3年度	令和2年度	増減
I 流動負債	2,583	2,561	23
還付未済金	19	17	2
特別区債	1,702	1,633	70
短期借入金	0	0	0
リース債務	73	71	2
未払金	0	0	0
賞与引当金	770	841	△ 71
その他	20	0	20
II 固定負債	25,739	25,832	△ 93
特別区債	16,823	17,385	△ 562
長期借入金	0	0	0
リース債務	97	161	△ 64
退職給与引当金	8,819	8,286	533
負債の部合計	28,323	28,393	△ 70
【正味財産の部】	令和3年度	令和2年度	増減
正味財産	391,011	383,174	7,837
負債及び正味財産の部合計	419,334	411,566	7,767

正味財産

資産の部合計から負債の部合計を差し引いたものです。

I 流動負債	II 固定負債
<p>翌年度に支払うべき負債です。</p> <p>還付未済金 過誤納金のうち、当年度末までに還付できなかったもの</p> <p>特別区債（流動負債） 特別区債のうち、翌年度償還予定額</p> <p>リース債務（流動負債） リース資産計上金額のうち、翌年度支払予定の賃借料</p> <p>賞与引当金 翌年度6月の期末・勤勉手当等のうち、当年度の勤務に対応する額</p>	<p>1年を超えて支払時期が到来する負債です。</p> <p>特別区債（固定負債） 特別区債のうち、翌々年度以降の償還予定額</p> <p>リース債務（固定負債） リース資産計上金額のうち、翌々年度以降に支払予定の賃借料</p> <p>退職給与引当金 在籍する職員が期末に自己都合退職すると仮定した場合に必要な退職手当額を見積計上したもの</p>

2 行政コスト計算書

行政コスト計算書とは、1年間の行政活動のうち、資産形成にあたらぬ行政サービスの費用（給与関係費、物件費、扶助費等）と収入（地方税、使用料及び手数料等）を示したものです。収入には、当年度に収入することが決まった金額のほか、各種引当金の戻入益等現金の収入を伴わないものも含まれています。また、費用には減価償却費や各種引当金の繰入額等現金の支出を伴わないものが含まれています。

行政コスト計算書は、現金収支だけでなく、行政サービスを提供するために必要な、会計上想定される収支も含んでいるから、より幅広くコストを把握できるんだよ。



通常収支の部
通常の行政活動に伴う収支のことです。

I 行政収支の部
区が区民に行う行政サービスの活動による収支で構成されます。

II 金融収支の部
預金利子収入や資金調達経費（特別区債利子等）の収支で構成されます。

通常収支差額
行政収支差額と金融収支差額との合計額です。

特別収支の部
固定資産の売却益等、通常収支には含まれない収入と費用で構成されます。

当期収支差額
通常収支差額と特別収支差額との合計額です。

<一般会計行政コスト計算書>

(単位：百万円)

科目	令和3年度	令和2年度	増減
通常収支の部			
I 行政収支の部			
1 行政収入	107,512	116,295	△ 8,783
地方税	18,499	18,489	11
地方譲与税・交付金等	6,339	5,659	680
特別区財政調整交付金	41,014	39,054	1,961
国庫支出金	29,404	40,525	△ 11,121
都支出金	7,762	8,495	△ 732
分担金及び負担金	1,049	891	159
使用料及び手数料	1,623	1,517	106
繰入金	85	92	△ 7
その他の行政収入	1,736	1,575	162
2 行政費用	100,823	113,793	△ 12,970
給与関係費	16,660	16,535	125
物件費	23,944	20,057	3,887
維持補修費	1,188	1,267	△ 79
扶助費	30,738	30,085	653
補助費等	12,639	30,045	△ 17,406
投資的経費	2,098	2,078	20
繰出金	7,807	7,798	10
減価償却費	3,658	3,409	249
不納欠損・貸倒引当金繰入額	68	150	△ 82
賞与・退職給与引当金繰入額	2,022	2,368	△ 346
行政収支差額	6,689	2,502	4,187
II 金融収支の部			
1 金融収入	39	43	△ 4
受取利息及配当金	39	43	△ 4
2 金融費用	120	133	△ 13
公債費（特別区債利子）	120	133	△ 13
その他の金融費用	0	0	0
金融収支差額	△ 81	△ 91	10
通常収支差額	6,608	2,412	4,197
特別収支の部			
1 特別収入	116	112	5
2 特別費用	191	169	21
特別収支差額	△ 74	△ 58	△ 17
当期収支差額	6,534	2,354	4,180

※ 8頁の勘定科目は、わかりやすいよう、地方税を特別区税、給与関係費を人件費、物件費を委託料や物品購入費等、扶助費を福祉給付等と読み替えています。

通常収支の部

I 行政収支の部

1 行政収入

地方税 特別区民税、軽自動車税、特別区たばこ税

地方譲与税・交付金等 地方譲与税（地方揮発油譲与税、自動車重量譲与税）、地方特例交付金及びその他の交付金等

特別区財政調整交付金 都と特別区及び特別区相互間の財源均衡化を図るため、都から区へ交付されるもの

国庫支出金／都支出金 国・都からの支出金のうち、資産形成にあたらぬもの

分担金及び負担金 区の行う事業による受益者からの徴収金

使用料及び手数料 区民施設の使用料や、住民票の発行手数料等

繰入金 特別会計から一般会計への繰入金のうち、資産に計上しないもの

その他の行政収入 財産収入、寄附金、諸収入

2 行政費用

給与関係費 報酬、給料、職員手当等の人件費

物件費 光熱水費、消耗品費や 100 万円未満の備品購入費、委託料等

維持補修費 公有財産等の維持・補修経費（施設の増改築等、資産価値を向上させる支出は含まない）

扶助費 生活保護法や児童福祉法等に基づき支給する福祉給付等

補助費等 他団体等に対して支出する、負担金、補助金及び交付金等の経費

投資的経費 投資的経費のうち、委託料や工事請負費等で、少額支出等の理由により区の資産形成にあたらぬ経費

繰出金 一般会計から特別会計への繰出金のうち、資産に計上しないもの

減価償却費 建物、工作物、取得価格 100 万円以上の物品等、固定資産の 1 年間の価値減少分について、定額法により見積り、費用として計上したもの

不納欠損・貸倒引当金繰入額 不納欠損引当金、貸倒引当金の当期発生額

賞与・退職給与引当金繰入額 賞与引当金、退職給与引当金の当期発生額

II 金融収支の部

1 金融収入

受取利息及配当金 基金積立金等による利子収入や株式配当金等

2 金融費用

公債費（特別区債利子） 特別区債に係る支払利子

その他の金融費用 特別区債発行費（特別区債発行等に要する経費）、特別区債発行差金（特別区債を割引発行した場合に生じた特別区債の額面金額と実際の発行金額との差額）、一時借入金等利子

特別収支の部

区が区民に行う行政サービスの活動による収支には含まれない収入・費用

1 特別収入

固定資産売却益等

2 特別費用

固定資産売却損、不納欠損額等

3 キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、現金収支を3つの活動区分（行政サービス活動、社会資本整備等投資活動、財務活動）に分けて表示したものです。活動区分の名称等、企業会計とは異なる部分もありますが、現金収支を活動区分ごとに明らかにするという役割は、企業会計のキャッシュ・フロー計算書と同じです。

I 行政サービス活動	
経常的な行政サービスを提供するための現金収支です。	
<収入>	
税収等	地方税（特別区民税、軽自動車税、特別区たばこ税）、地方譲与税・交付金等（地方消費税交付金、配当割交付金等）、特別区財政調整交付金の収入
国庫支出金／都支出金	国・都からの支出金のうち、資産形成にあたらないもの
業務収入	分担金及び負担金や使用料及び手数料、その他事業収入等
金融収入	受取利息及び配当金による収入
<支出>	
給与関係費	職員給与等
物件費	光熱水費や消耗品費、100万円未満の備品購入費、委託料等
維持補修費	公有財産等の維持・補修経費（施設の増改築等、資産に計上される支出は含まない）
扶助費	生活保護法や児童福祉法等に基づき支給する福祉給付等
補助費等	他団体等に対して支出する、負担金、補助金及び交付金等の経費
投資的経費	委託料や工事請負費等のうち、支出の性質や金額の僅少性から、区の資産形成にあたらない経費
繰出金	一般会計から特別会計への繰出金のうち、資産計上しないもの
金融支出	特別区債（利子）、特別区債発行費、一時借入金等利子等の支出

<一般会計キャッシュ・フロー計算書>

（単位：百万円）

科目	令和3年度	令和2年度	増減
I 行政サービス活動			
税収等	65,916	63,150	2,766
地方税	18,563	18,437	125
地方譲与税・交付金等	6,339	5,659	680
特別区財政調整交付金	41,014	39,054	1,961
国庫支出金	29,404	40,525	△ 11,121
都支出金	7,762	8,495	△ 732
業務収入	4,500	3,992	509
分担金及び負担金	1,080	846	234
使用料及び手数料	1,641	1,495	146
繰入金	85	92	△ 7
その他業務収入	1,696	1,560	136
金融収入	39	43	△ 4
収入計	107,622	116,204	△ 8,582
行政支出	96,666	109,646	△ 12,981
給与関係費	18,243	18,306	△ 63
物件費	23,944	20,057	3,887
維持補修費	1,188	1,267	△ 79
扶助費	30,738	30,085	653
補助費等	12,646	30,055	△ 17,409
投資的経費	2,098	2,078	20
繰出金	7,807	7,798	10
金融支出	120	133	△ 13
（うち特別区債利子等）	120	133	△ 13
特別支出	0	0	0
支出計	96,785	109,780	△ 12,995
行政サービス活動収支差額	10,837	6,424	4,412

キャッシュ・フロー計算書は、次のページに続くよ。

18頁と19頁あわせてひとつの表なんだよ。



キャッシュ・フロー計算書は活動区分ごとにみるのよ。行政サービス活動の収支差額がプラスになっているでしょ。このプラス分が、施設整備や大規模修繕等（社会資本整備等投資活動）、特別区債の返済等（財務活動）に使われていることがわかるのよ。



キャッシュ・フロー計算書には、非現金収支の情報が含まれません。従って、最終的な収支差額（形式収支）は、一般会計決算に一致します。

（単位：百万円）

科目	令和3年度	令和2年度	増減
II 社会資本整備等投資活動			
国庫支出金等	1,268	2,182	△ 914
国庫支出金・都支出金	1,268	2,142	△ 874
分担金及び負担金等	0	40	△ 40
財産収入	29	34	△ 5
基金繰入金	19	6	13
財政調整基金	0	0	0
特別区債等管理基金	0	0	0
特定目的基金	19	6	13
貸付金元金回収収入	1,013	1,028	△ 15
収入計	2,329	3,251	△ 922
社会資本整備支出	7,512	7,359	152
基金積立金	1,354	2,662	△ 1,309
財政調整基金	582	2,580	△ 1,998
特別区債等管理基金	4	5	△ 1
特定目的基金	768	78	690
貸付金・出資金等	1,117	1,032	85
支出計	9,983	11,054	△ 1,071
社会資本整備等投資活動収支差額	△ 7,654	△ 7,803	150
III 財務活動			
財務活動収入	1,140	2,524	△ 1,384
特別区債	1,140	2,524	△ 1,384
収入計	1,140	2,524	△ 1,384
財務活動支出	1,705	1,676	29
公債費（特別区債元金）	1,633	1,600	32
リース債務返済	73	76	△ 3
支出計	1,705	1,676	29
財務活動収支差額	△ 565	848	△ 1,413
収支差額合計	2,618	△ 531	3,149
前年度からの繰越金	2,338	2,869	△ 531
形式収支	4,956	2,338	2,618

II 社会資本整備等投資活動

固定資産や基金の増減に係る現金収支です。

<収入>

国庫支出金等 国・都からの支出金のうち、資産形成にあたるもの

財産収入 区有地など区の財産の売払い収入

基金繰入金 財政調整基金、特別区債等管理基金、特定目的基金からの繰入収入

貸付金元金回収収入 貸付金の元金償還による収入

<支出>

社会資本整備支出 公共施設など区の固定資産の形成にあたる支出

基金積立金 基金に積み立てるための支出

貸付金・出資金等 区民や事業者等への貸付事業支出及び出資金等

III 財務活動

外部からの資金調達に係る現金収支（主に特別区債の借入金収入及び償還金支出）です。

<収入>

特別区債 特別区債発行による収入

<支出>

公債費（特別区債元金） 特別区債の償還金のうち元金分の支出

リース債務返済 リース資産の賃借料の支出

4 正味財産変動計算書

正味財産変動計算書は、貸借対照表の正味財産の増減を、要因ごとに表示したものです。正味財産がどのような要因で増減しているのかを明らかにしています。

<一般会計正味財産変動計算書>

(単位：百万円)

	開始残高相当	国庫支出金	都支出金	負担金及繰入金等	受贈財産評価額	会計間取引勘定	その他剰余金	合計
令和2年度末残高	347,488	4,607	4,158	43	371	△171	26,678	383,174
令和3年度変動額	0	612	656	0	58	△23	6,534	7,837
固定資産等の増減	0	612	656	0	58	0	0	1,326
特別区債等の増減	0	0	0	0	0	△23	0	△23
その他内部取引による増減	0	0	0	0	0	0	0	0
当期収支差額	0	0	0	0	0	0	6,534	6,534
令和3年度末残高	347,488	5,220	4,813	43	429	△194	33,212	391,011

正味財産変動計算書

開始残高相当

開始時（平成28年4月）の資産と負債の差額

国庫支出金／都支出金

国・都からの支出金のうち、資産形成にあたるもの

負担金及繰入金等

負担金等その他の歳入のうち、資産形成にあたるもの

受贈財産評価額

無償で受け入れた資産の評価額

会計間取引勘定

会計間で正味財産を異動した場合に計上されるもの

その他剰余金

行政コスト計算書の当期収支差額

当期末残高・合計

貸借対照表の正味財産の額



正味財産の合計列を見ると、令和2年度末残高が3,832億円だったのが、令和3年度中に78億円増加して、令和3年度末当期末残高が3,910億円になったのね。

令和3年度に増えた78億円の内訳をみると、公共施設整備など固定資産等の形成のための国庫・都支出金13億円、行政コスト計算書の当期収支差額のその他剰余金65億円が主な理由だってことがわかるんだね。



5 有形固定資産及び無形固定資産附属明細書

有形固定資産及び無形固定資産附属明細書は、荒川区が保有する固定資産（投資その他の資産を除く）の状況を示したものです。

<一般会計有形固定資産及び無形固定資産附属明細書>

（単位：百万円）

	令和2年度 末残高 (取得額)	令和3年度 増減額 (取得額)	令和3年度 末残高 (取得額)	令和3年度 末減価償却 累計額	令和3年度減 価償却額	令和3年度末 残高 (現在価格)
有形固定資産	437,985	7,411	445,396	82,704	3,657	362,692
行政財産	224,369	7,363	231,732	75,029	3,303	156,703
土地	92,219	827	93,046	0	0	93,046
建物	120,336	5,319	125,655	66,270	3,016	59,385
工作物	11,814	1,217	13,031	8,759	288	4,272
其他有形固定資産	0	0	0	0	0	0
普通財産	14,479	665	15,144	2,523	32	12,621
土地	11,637	688	12,325	0	0	12,325
建物	2,764	△ 23	2,741	2,447	32	294
工作物	78	0	78	76	0	2
其他有形固定資産	0	0	0	0	0	0
重要物品	2,801	51	2,852	1,495	99	1,357
インフラ資産	193,291	589	193,880	3,580	186	190,300
土地	175,336	46	175,382	0	0	175,382
土地以外	17,954	544	18,498	3,580	186	14,918
リース資産	586	△ 13	574	77	37	496
建設仮勘定	2,460	△ 1,245	1,215	0	0	1,215
無形固定資産	7	0	7	5	0	2
行政財産	0	0	0	0	0	0
普通財産	7	0	7	5	0	2
インフラ資産	0	0	0	0	0	0
計	437,992	7,411	445,403	82,710	3,658	362,694



有形固定資産及び無形固定資産の令和2年度末残高は4,380億円だったんだけど、令和3年度中に新たなふれあい館の建設やあらかわ遊園の大規模改修等を行ったから、土地や建物等が74億円増えて、令和3年度末残高は4,454億円になったんだよ。

そこから令和3年度末減価償却累計額827億円を差し引くと令和3年度末の現在価格が3,627億円になるんだよ。

公共施設（行政財産と普通財産）の建物と工作物の現在価格は、取得額1,415億円から減価償却累計額776億円を引いた640億円なのね。

区の公共施設は、使用や時間の経過等に伴って、老朽化や損耗などが進んで、半分くらい資産価値が下がっているのね。



《参考》 荒川区の新公会計制度への取組みの経緯

年月等	内 容
平成 12年度	決算統計の組替による初の区の貸借対照表（平成11年度決算版）を作成
19年3月	「地方自治体に経営の視点を定着させること」、「地方自治体の情報開示をより一層向上させること」を目的に、「自治体公会計改革宣言」を行う
20年9月	総務省方式改訂モデル（決算統計組替）による財務諸表作成（平成19年度決算版）
21年3月	総務省方式改訂モデルによる財務諸表を活用し、「荒川区包括年次財務報告書」を公表（平成19年度決算版） ※以降、平成27年度決算版まで総務省方式改訂モデルにより毎年度公表
26年4月	従来の決算統計組替に代わる本格的な日々仕訳による複式簿記・発生主義会計の導入を検討するため、庁内に検討委員会を設置
26年度 ～27年度	東京都方式の導入を決定し、平成28年度新公会計制度導入に向けて、会計基準や固定資産台帳の整備のほか、財務会計システムの改修等を行う
28年4月	新公会計制度の運用開始
29年9月	新公会計制度による初めての財務諸表を作成し、「荒川区包括年次財務報告書」で公表（平成28年度決算版）
30年10月	「あら坊・あらみいと一緒にみる荒川区の財務諸表」作成
31年3月	統一的な基準による財務書類をホームページで参考として公表
令和2年12月	「荒川区の財務諸表Q&A」作成

いかがでしたか。

荒川区の財務諸表をもっと知りたい方は**令和3年度荒川区包括年次財務報告書**をご覧くださいね。財務諸表の詳細な分析のほか、区が目指す都市像別の財務分析も掲載しているのよ。

区役所地下1階情報提供コーナー、各区民事務所・図書館等で配付中です。

荒川区のホームページにも掲載しているよ。ぜひみてね！



令和4年10月発行

登録番号（04）0050

あら坊・あらみいと一緒にみる 荒川区の財務諸表

編集・発行 荒川区会計管理部会計管理課
〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3
TEL 03-3802-3111（代表） 内線 3221